平成２８年度　第３回足立区総合教育会議　次第

平成２８年１１月１４日（月）
午前１０時００分～１１時１５分
足立区役所　８階特別会議室

１　学力調査結果をふまえた今後の学力向上施策について

【資 料】

資料１　　足立区の学力向上施策に対する教育委員の意見
資料２　　２８年度　足立区総合教育会議について
【参考資料】学力調査結果報告及び今後の取り組み等について

平成２８年度第３回足立区総合教育会議　出席者名簿

１　構成員

役　職	氏　名
区長	近藤　やよい
教育長	定野　司
教育委員（教育長職務代理者）	葉養　正明
教育委員	小川　清美
教育委員	杉田　直子
教育委員	小池　康之

２　関係職員

役　職	氏　名
政策経営部長	長谷川　勝美
総合事業調整担当部長	秋生　修一郎
総務部長	大山　日出夫
地域のちから推進部長	和泉　恭正
産業経済部長	石居　聡
福祉部長	橋本　弘
衛生部長	大高　秀明
学校教育部長	宮本　博之
学力定着対策室長	須原　愛記
子ども家庭部長	鳥山　高章
こども支援センターげんき所長	今井　伸幸
生涯学習振興公社事務局長	伊藤　良久
政策経営課長	中村　明慶
秘書課長	高橋　俊哉
地域文化課長	浅見　信昭
教育政策課長	杉岡　淳子
教育指導課長	浮津　健史
学校指導担当課長	斎藤　一裕
学力定着推進課長	森　　太一
就学前教育推進課長	飯塚　尚美
子ども政策課長	上遠野　葉子

平成２８年度
第３回足立区総合教育会議
（１１月１４日）

座席表

傍聴席

生涯学習振興公社
事務局長

こども支援ｾﾝﾀｰ
げんき所長

子ども家庭
部長

学力定着
対策室長

学校教育
部長

教育委員
小池　康之

教育委員
杉田　直子

教育長

足立区長

衛生部長

福祉部長

産業経済
部長

地域のちから
推進部長

総務部長

総合事業調整
担当部長

政策経営
部長

教育委員
小川　清美

教育委員
葉養　正明

事務局

秘書課長

子ども政策
課長

就学前教育
推進課長

学力定着
推進課長

学校指導
担当課長

教育指導
課長

教育政策
課長

地域文化
課長

政策経営
課長

出入口

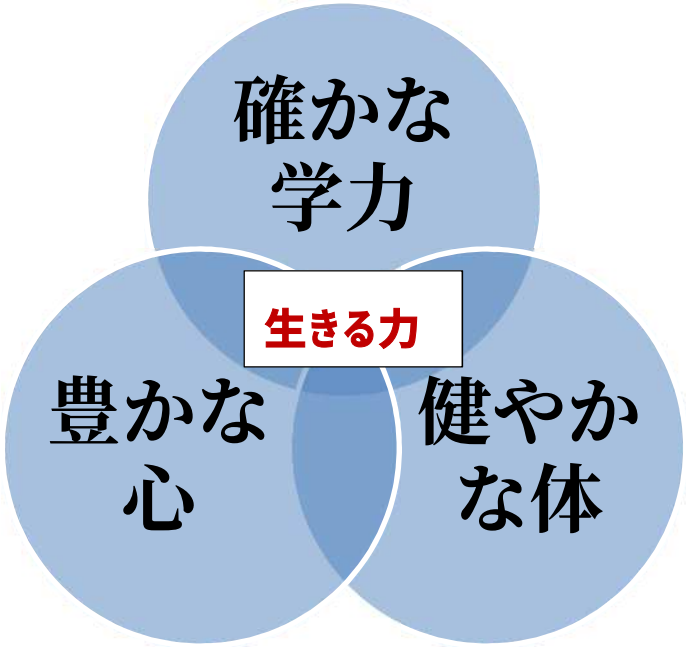
【資料１－１】足立区の学力向上施策を考察する視点

足立区教育委員会 教育長職務代理者　葉養 正明

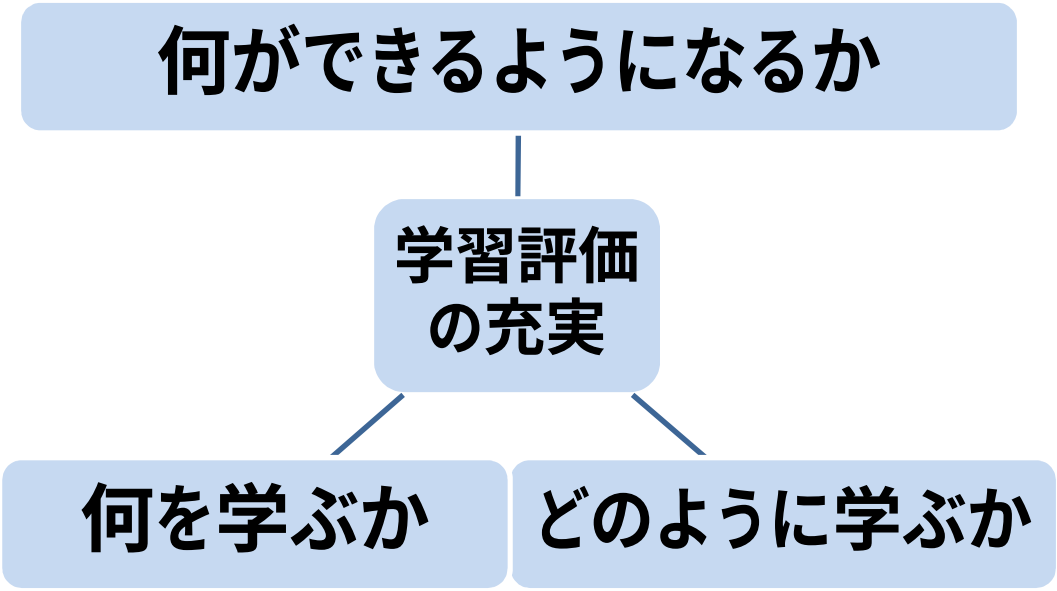
○学力をめぐるいくつかの課題：学力概念の問題、学力の規定要因の問題、学校の守備範囲の問題

＜学力概念の問題＞

現行学習指導要領では：



平成 32 年度から実施される新学習指導要領では：育成すべき資質・能力の柱



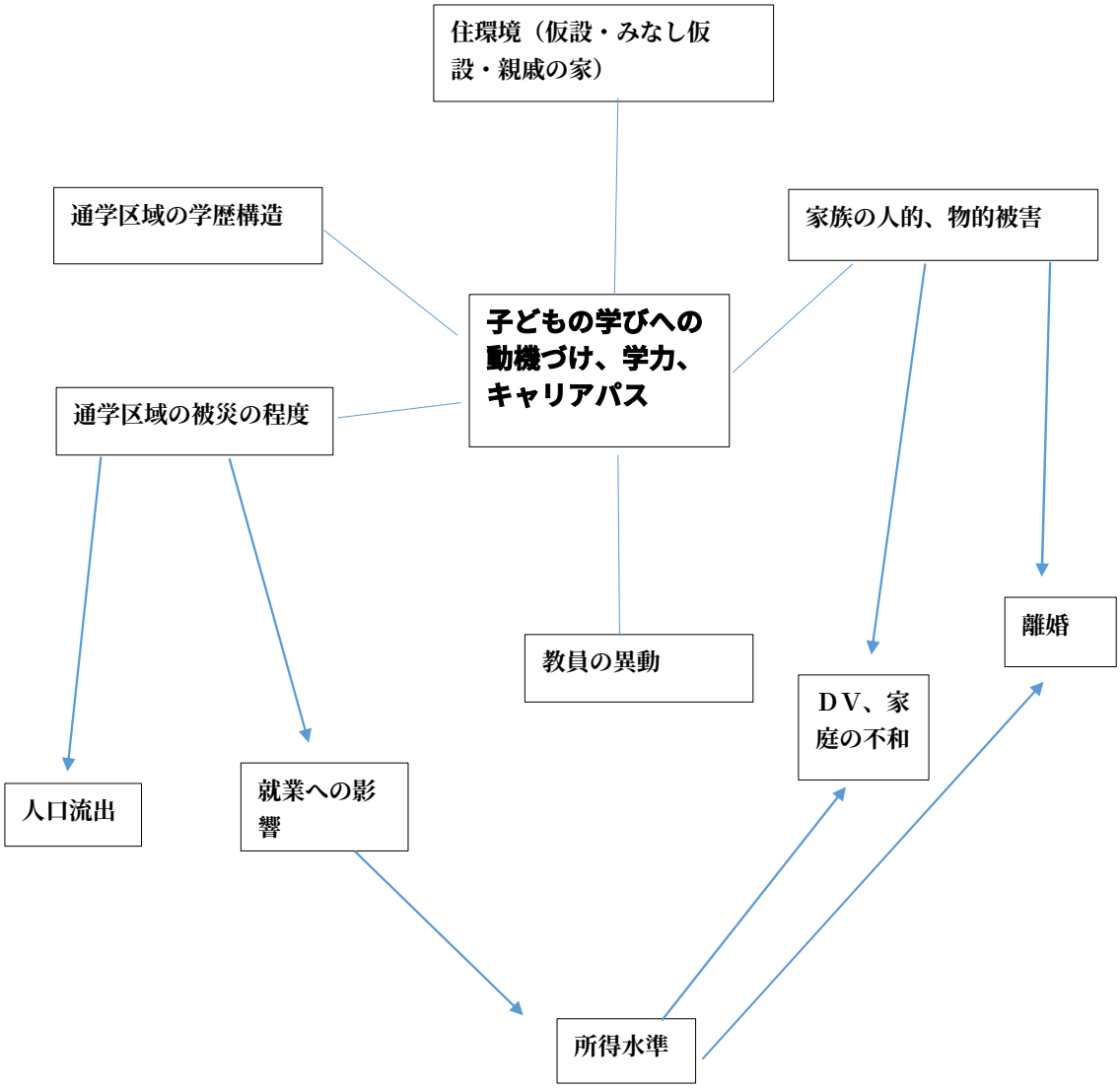
＜学力の規定要因の問題＞

東日本大震災後の継時的縦断調査（2007，2013，2016）から
岩手県宮古市立中学校（11 校）生徒対象に生活と学習、社会環境の質問紙調査（ソーシャル・キャピタル調査）⇒3 時点の全市生徒の環境意識の推移
＊2007 年は、約 1/2 を抽出、2013 年、2016 年は悉皆調査。2013、2016 年の調査実施責任者は葉養。

⇒大震災は、子どもの学びの環境を崩壊させる、という意味で、学びを取り戻すことを目指した復興の過程では、学びの規定要因や構造が浮き彫りになる。
参考：
「この学校が好きですか」という設問への中学生（1～3 年）の肯定的回答の変化：
2007 年→36.7%
2013 年→57.7%
2016 年→63.6%

この縦断調査から浮き上がってきた「学びの要因連関」

＜図　子どもの学びを規定する要因連関＞



震災後５年半を過ぎ、特に目立っているのは、<u>家族の崩壊（震災による死亡・行方不明等に加え、離婚の増加、家庭の不和等）による生徒の生活・学習環境の悪化</u>

＜学校の守備範囲の問題＞

臨時国会への教育公務員特例法改正、教育職員免許法改正、義務標準法改正等が予定され、教職員定数改善計画も打ち出されている⇒チーム学校というスローガンのもと、学校に多様な専門的人材を引き入れ、教員の役割の絞り込みを図る、とともに、学校それぞれの教育力を高めるために、NPO,産業界との連携や地域ボランティアの活用を想定している。

教育再生実行会議での新たなテーマとして、学校・家庭・地域の連携協力による教員役割の絞り込みがあげられている。

〇足立区の学力向上施策を考える

１　評価できる事業

・小中学生の学力を、通過率、正答率、全体参考値の３点でとらえ、学校ごとの課題を明確化している。
・教育委員会には、学校教育部とともに子ども家庭部が組み込まれており、０歳から15歳までの子どもの成長発達支援体制を体系的に施策化している
・学力を底上げするための施策の検討のため、足立区・足立区教育委員会・国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部による「未来へつなぐあだちプロジェクト子どもの健康・生活実態調査　平成27年度報告書」（平成28年４月）が公刊され、他自治体にも大きなインパクトを与えた
・区内各学校の学力状況データが公開され、区民の情報共有を進めている
・教科指導専門員を委嘱して授業力を強化する取り組みなどは、新しい学習指導要領への移行準備という意味でも、評価できる取組。秋田県大仙市との教員交流など先進地の取組を摂取する試みも評価できる
・北千住地区に５大学が誘致されている。大学への社会心理的距離を縮める、大学生が地域に居住するなどによって、児童生徒との交流も進められている。
・大学研究者が、子育て・教育を含む地域の課題に取り組む状況が強まっている

２　課題と感じていること

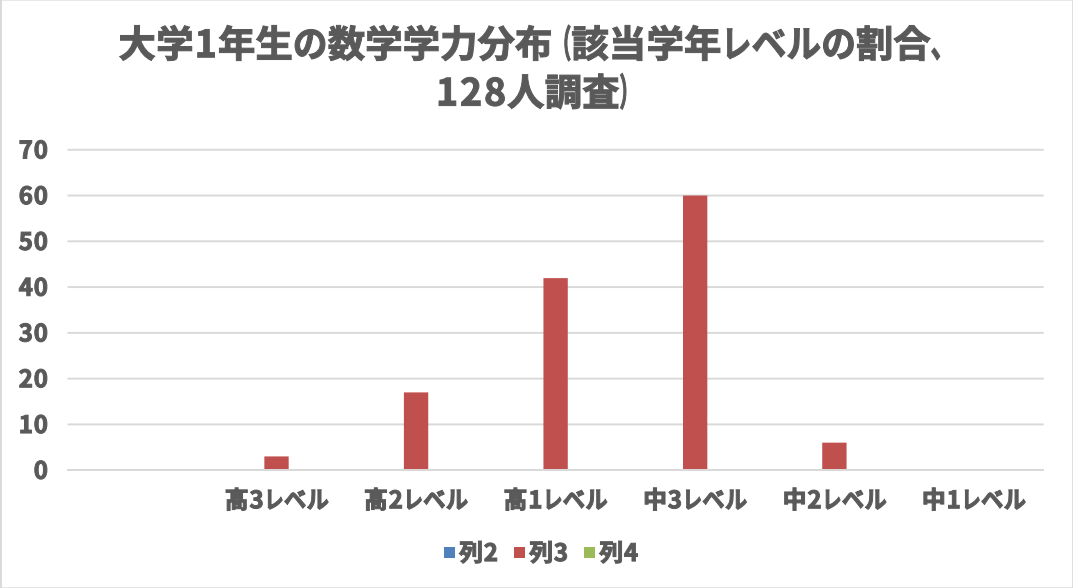
・各学校の学力平均値は明確になっているが、低学力層が増えている学校もあり、その背後に潜んでいる要因の解明や低学力層の子どもを支援する上でのニーズと政策とのミスマッチがないかどうかの検証が必要
・小学生よりも中学生の不登校が多いなどへの対応としては、廃校を活用した不登校

の児童生徒のための教育施設など、子どもの多様性に対応する学び拠点を整備するしかないのではないか？→教育課程特例校制度の活用、公設民営型学校の導入、株立学校の招致など。

・「学力の生産関数」の研究、学力とソーシャル・キャピタルの研究などの中で、保護者の所得水準などに還元できない要素（残余変数）があり、「つながり」（つながり格差）への着目が広がっている。また、イギリス・ロンドンのインナー・シティ（タワー・ハムレッツ地区）における学力底辺校対象のロンドン大学のプロジェクトでは、地域に息づくリーダーシップの確認・開発の戦略、専門家とコミュニティ・メンバーとの間の信頼関係を強める戦略、学校を民主主義の生きた事例へと変える戦略が採用され、開始 10 年後には、この地区の学校の成績は全英標準を上回るまでになり、全英随一の改善が図られた。

・学力を、継時的時系列的に追っていく調査は重要で、小学生は中学生の、中学生は高校生、大学生の学力の視点で見つめる必要がある。国の全国一斉学力調査は、自治体単位や学校単位での変動はわかるが、子どもひとり一人を追跡するデータではないため、低学力層の子どもにもっとも必要とされる施策の打ち出しが難しい。

・たとえば、大学１年生対象の次の学力調査結果（某大学で実施。調査は受験産業に携わる大手の会社に委託。国語と数学を対象。国語も下図の数学とほぼ同様の結果。）をどう読むか、という視点から、「基礎学力の定着を徹底する指導」の在り方が考えられる必要があるのではないか？



・中学校での国語の授業などで、基礎的な漢字の読み、書きなどを確認する。

（例）某中学校の国語の授業（3 年生対象）で：魯迅の作品を取り上げた授業

→授業そのものの組み立ては優れていた。一つだけ思ったのは、生徒に作品を読ませた際、「真冬の候」の箇所の読みができなかった生徒がいたが、「候」の読みが今徹

底していないと、大学生までその「読みの力」を引きずるのでは、ということであった。また、「寂寥」の読み方や「寂」と「寥」とが同じ意味だと解説する際に、特に、「寥」の語義は理解できない生徒が多いと思われるので、読み方や語義に注意を促す指導を進めた方がよいのではないか、という点。

→**大学生に作品を読ませたときに、簡単な漢字が読めない学生が多い**。中学生レベルの漢字の習得が不十分で、それを大学生まで引きずる？？

３　今後の事業展開への期待

・**子どもの多様な生き方に対応した成長発達支援のための総合行政の構築**
⇒
＜例＞
廃校跡地を活用しての子どもの多様性に対応した新たな学校の招致。

○**不登校の子ども**対象の学校の誘致（公設民営型学校、株式会社立学校、NPO による学園など）
（事例：長野県上田市さくら国際高校＜株式会社立学校として廃校小学校の跡地を活用して発足。初代校長は元上田市教育長の森先生。＞）

○すべて英語で教育活動を進める**国際学校の誘致**（事例：相模原の LCA 国際小学校＜廃校になった小学校跡地に株式会社立で設置。2015 年 4 月に校地移転して、学校法人化を目指している。＞、群馬国際アカデミー＜太田市が土地建物の提供、公設民営型の小中校一貫の私立学校。学校内の活動は英語で、イマージョンを採用。＞）など。

・「２　課題と感じていること」で言及したように、教育困難地域の学力の底上げには、家庭や地域の就業構造などへの手当て、**地域と学校との協働体制**を強めるための方策、などが重要になる。
つまり、学力の底上げのため、**総合行政としての取組が必要**になるので、地域を特定して子育て・教育環境の改善をねらいとした地域プロジェクトなどを打ち出すなどの取組ができないだろうか？
→**総合教育会議の内部に、子育て・教育、地域開発プロジェクト・チームを立ち上げ**、関連セクションが協働する体制を整備するなど「**子育て・学び・キャリア開発プラットフォーム**」**の構築。すでに動いている事業の体系化や事業間の調整、拡充など。**

＜すでに動いている事業は＞
子どもの貧困対策担当部→子どもの居場所づくり
地域のちから推進部→図書館ネットワーク、学童、地域学習センター、地域コミュニティ形成支援
産業経済部→**ものづくりをコア**とした地域振興、ものづくり人材の養成プログラムの開発、卒業者の就業支援
福祉部→子育て支援、家庭支援、中学生の居場所・学びの場づくり
衛生部→生活実態調査など、食育

・政府の教育再生実行会議で議論が始まっているように、特に**中学校の部活動を学校外部事業に転換し、教員の業務負担の軽減を図る**。
そのため、地域にスポーツや文化・社会活動などを対象にした**学校支援プラットフォーム**を構築する。⇒地域のちから推進部など

・教育委員の役割付加
⇒**教育委員が区内の検討組織の委員となる体制**も整備し、プロジェクト・チームに加わることも考えられるのではないか？

【資料１－２】足立区の学力向上施策について

足立区教育委員会 委員　小池　康之

１　評価できる事業

（１）区独自の学力調査を継続していることと、その分析に基づいた取り組み

①「そだち指導」の実施
②　ＭＩＭの実施
③　学力定着指導員、教科指導専門員の配置
④　夏季中１勉強合宿
⑤「足立はばたき塾、土曜塾」の実施
⑥　図書館支援員の配置
⑦　英語アドバイザーの配置
⑧　秋田大仙市への教員派遣
⑨　民間の学習塾を活用した新規教員の授業力の育成
⑩　５歳児プログラムの実施（幼保小の連携）

（２）「地域の人材を活用した取り組み

①　放課後子ども教室の実施
②　授業支援ボランティアの活用

２　課題と感じていること

（１）学力について

①　基礎・基本の学力の定着から，段階的に活用力へ（小学校）
②　基礎・基本の学力の定着（中学校）
③　教員の意識改革と授業力の向上
④　体験活動の不足

（２）園児、児童、生徒について

①　不登校児童・生徒の増加
②　発達課題を有した園児の就学とその後の小学校での対応
③　放課後や休日における居場所の確保
④　高校中途退学者数の多さ

（３）その他

①　クレーマー対策
②　校長、副校長の他区との人事交流

３　今後の事業展開への期待

（１）学力について

①　教師の授業力の向上を図る研修会の充実
（特に、学力ポートフォリオを活用した学習状況の把握とそれを基盤にした授業展開）

②体験活動の充実を図ること

○日光・鋸南自然教室
（現地に自然観察専門員を配置し、活動の充実を図る）

○自然教室での生活時間の弾力化
（活動の内容に応じて、起床、就寝時間の変更を可とする）

○足立区少年団体協議会のキャンプ等の活用
（生活保護世帯の子どもの参加費の軽減）

（２）園児、児童、生徒について

①　不登校児童・生徒ため在籍校以外での居場所づくり

②　地域学習センターや住区センター等を活用した居場所の確保
（特に、放課後や休日）

③　子ども食堂等の充実

④　発達課題を有した児童のための学習支援員の拡大
（現在、週１日、午前中、最大６ヶ月）

（３）その他

○事件・事故やクレーマー対策等を専門にした企業による、管理職への直接支援やクレーマー対応についての研修会の実施。

【資料１－３】学びの基礎づくりのために

足立区教育委員会 委員　小川 清美

１　評価できる事業

教育委員会が関係している公立保育所の「あだち 5 歳児プログラム」は、小学校への学力に影響を与えていると思われる。小学校の学力が向上してきたことがその証拠と考えていいと思う。

２　課題と感じていること

足立区は 23 区内で 2 番目に私立幼稚園が多い区（世田谷区が最も多い）であり、園児も非常に多いが、私立幼稚園における保育・教育は様々である。この私立幼稚園との連携体制を強化することができれば、小学校、中学校へと続く学習の基礎が培えると考える。

３　今後の事業展開への期待

保育所不足という現状で、乳幼児がいる場所の確保はどんどん進むだろう。小学生も学童が 6 年生までは受け入れることになり、保護者は安心すると思う。ただし、すべての子どもが学童に行くわけではないので、学童に行かない小学生の居場所が必要だと思う。中学生の居場所が小学生もともにいることで、異年齢交流ができるような場所があるといい。当然、良い交流が行われるように、大人は必要である。食事の提供もあるといい。

【資料１－４】学力の定着と子どもの居場所について

足立区教育委員会 委員　杉田 直子

１　評価できる事業

- 図書館支援員の配置
- 子どもの居場所づくり
- そだち指導員
- 教科指導専門員の配置

２　課題と感じていること

- 就学前に規則正しい生活習慣が身についていることが前提で学校教育が始まり、家庭においても自然に宿題などの毎日の家庭学習が身につくのだと考える。そうした積み重ねによって基礎学力が養われていくとするならば、就学前の家庭における規則正しい生活習慣を今まで以上に重要視する必要がある。
- 基礎学力定着に課題が残っているが、この解決には、小学校時代から家庭学習の習慣を身につけることが不可欠ではないか。低学年のうちに毎日の家庭学習の習慣を身につけるためにも、親に限らず、大人が見守る環境があるとより有効だが、毎日となると難しいのが現状である。
- 中学校での家庭学習の定着を考えると、宿題の在り方について、学校現場と意見交換などしても良いのではないか。
- 基礎学力の「読む」「書く」の力が低下しているように感じる。特に読書離れは小学校、中学校ともに著しいのではないか。

３　今後の事業展開への期待

- 現在、様々な主体が子どもの居場所づくりに取り組んでいる。家庭のあり方も多様化し、低学年からの家庭学習習慣定着が難しくなっているのであれば、こういった居場所で、子どもたちが落ち着いて宿題や読書に取り組む環境を広げていくことは考えられないか。大人が見守り、家庭も安心して送り出すことができると思われる。
- 夏休みの居場所については、住区センター（児童館）や地域学習センター、地域図書館など地域の資源を活用したい。友達同士や一人でも「ふらっと」立ち寄ることのできる雰囲気や宿題や読書ができる簡単なスペースがあるだけでも良い。

【 資 料 ２ 】

Ｈ２８第３回会議

【資料２】２８年度　足立区総合教育会議について

２８年度の会議日程及び主な協議・調整項目（予定を含む）

会議日程		主な協議・調整項目
第１回 ※済み	５月３０日（月） 午前１０時～ ８階特別会議室	■ 足立区いじめ調査委員会の報告について ■ 子どもの貧困対策について ・子どもの健康・生活実態調査の報告 ・子どもの居場所を兼ねた学習支援事業の現況
第２回 ※済み	９月６日（火） 午後２時３０分～ ８階庁議室	■ 不登校対策について
第３回	１１月１４日（月） 午前１０時～ ８階特別会議室	■ 学力調査結果をふまえた今後の学力向上施策について
第４回	２月２１日（火） 午後１時３０分～ ８階特別会議室	■ （予定）本年度の教育施策の振り返り ■ （予定）新年度に向けた教育課題の整理

【参考資料】
Ｈ２８第３回会議

【参考資料】学力調査結果の報告及び今後の取り組みについて

１　現状

○平成２８年度「足立区基礎学力定着に関する総合調査」結果
・別紙１「足立区学力調査　通過率の推移」
・別紙２「足立区学力調査　正答率の分布」
・別紙３「足立区学力調査　全体参考値との差

○平成２８年度「全国学力･学習状況調査」結果
・別紙４「全国学力調査　領域別・観点別等平均正答率」

○学力向上にかかわるこれまでの取り組み
・別紙５「平成２８年度　学力向上に関わる主要教育施策」

２　現状に対する分析

（１）小学校

◇　通過率が年々向上し、平成２８年度は国語・算数とも 77%台となった。

◇　学年別の正答率の分布を見ると、どの学年も、分布のピークが目標値より高く、目標値を達成する児童が多い。
　しかし、学年が進行するにつれて、目標値未満の児童数の分布がより下位に広がっていく傾向がある。特に、算数における小５（＝小４の学習内容）から小６（＝小５の学習内容）にかけてが、低位層（正答率 20%～50%）が増加している。

◇　観点別に全体参考値（※）との差を見ると、足立区の平均正答率はいずれも全体参考値を上回っているが、「読む能力」及び「言語に関する知識・理解・技能」が比較的低い。
（※）全体参考値とは、足立区学力調査と同じ事業者の学力調査を実施している地方自治体の調査結果の全体平均を、事業者が参考値として集計したもの。

◇　全国学力調査（小６対象）では、国語・算数とも、全国平均と同等か、上回っている。また、問題形式別では「選択式」に比べ、「短答式」「記述式」の平均正答率が低い。

（２）中学校

◇　通過率は年々少しずつ向上しているが、各教科とも 60～50%台にとどまっている。

◇　教科・学年別の正答率の分布の傾向は下記のとおり。

【国語】

・中１、中２とも正答率分布のピークが目標値より高いが、中３でやや上位層が減少し、目標値未達成の生徒が増加する傾向がある。

【数学】

・中１（＝小６での学習内容）では、正規分布となっており、分布のピークが目標値を大きく上回っている。

・中２（＝中１での学習内容）では、目標値未満の層において低位層（10～40%）が増加する。目標値直前の層（50～60%）も多く、ピークは二極化している。

・中３（＝中２での学習内容）では、目標値未満の層のピークが低得点層（30～40%）に移行する。全体的に見ると、低得点層、目標値を少し超える層、大幅に上回る層の３つのピークが見られる。

【英語】

・中２（＝中１での学習内容）では、高得点層（90%以上）がピークとなっているが、各層が低位層までほぼ万遍なく存在している。

・中３（＝中２での学習内容）では、中位層が増加し、下位層も依然として万遍なく存在している。

◇　観点別に全体参考値（※）との差を見ると、国語・数学ではほとんどの項目で全体参考値を上回っているが、中３では下回る項目が多い。また、英語では、中２、中３ともすべての項目で下回っている。

◇　全国学力調査（中３対象）では、全教科で全国平均との差を縮めつつも、依然として全体的に下回っている。

【参考資料】
Ｈ２８第３回会議

３　これまでの学力向上の取り組み

（１）学習状況の把握と学習環境の整備

・各学校・学年・教科ごとの基礎学力の定着状況を把握し、授業改善に生かすため、毎年度学力調査を実施。
・幼保小連携や小中連携による小１プロブレムや中１ギャップの解消、学校図書館の充実、生活指導員や QU 調査による学級運営の安定化により、安心して学習に集中できる環境を整備。

（２）教員の授業力の向上と授業の充実

・若手教員が多くベテラン教員が少ない教員構成の中で、教員の一定の授業力を担保するため、足立スタンダードの作成や研修の充実、教科指導専門員による指導等、人材育成を強化。
・秋田県大仙市との教員交流を通じて、先進的自治体の取り組みを区内学校へ発信。
・ALT（外国語指導助手）や小学校外国語活動アドバイザーの派遣、英語教材作成支援システムの提供により、英語授業や外国語活動を充実。

（３）個のつまずきの把握と適切な指導

・学力調査等を分析･活用する SP 表分析や学力ポートフォリオにより、児童・生徒個々のつまずきを適切に把握し、早期かつ継続的に解消。
・MIM(多層指導モデル)による小学校低学年での特殊音節のつまずきの解消と言語能力の向上。
・小学校中学年での個々のつまずきを早期に解決するそだち指導員を全校に配置。

（４）放課後や長期休業期間の補充学習

・児童・生徒個々のつまずきや学力層に応じて、放課後や長期休業期間等に補充学習を実施。
・民間教育機関やボランティアを活用し、人材・ノウハウ・教材等を学校へ提供することで、補充学習を充実。

（５）そのほかの学力向上の取り組み

・基礎学力の定着に加え、活用型の授業を効果的に行うことで、活用力の向上を目指す取り組みをモデル校で実施。
・新聞（全国主要５紙）の活用により、読解力の向上を目指す。
・学習意欲が高いが家庭事情により塾等の学習機会の少ない生徒に対し、難関都立高校の合格を目指す足立はばたき塾・土曜塾を実施。

【参考資料】
Ｈ２８第３回会議

４　課題及び今後の方向性

（１）小学校

◎小５・６学年における低位層の増加
・正答率分布では、高学年で低位層が増加する。小学校中学年でのつまずきに早期に対応し、これを予防していく必要がある。

⇒　＜今後の方向性（案）＞
①　そだち指導の充実による、小３・４年生のつまずきの解消の徹底
② 学校における放課後・長期休業時における補充学習の充実
③「読む」「書く」の作業を中心とした取り組みの支援・充実

◎「読む能力」「言語に関する知識・理解・技能」
・観点別では、「読む能力」「言語に関する知識・理解・技能」に課題が見られる。
・全国調査結果の問題別では、短答式・記述式問題の正答率は低いうえ無解答率が高く、前述の課題が影響していると考えられる。
・読む能力や言語能力の充実は、思考力・判断力・表現力、学習意欲の向上だけでなく、英語の基礎学力向上にもつながる。

⇒　＜今後の方向性（案）＞
① 活用力向上モデル校ガイドラインの策定と各学校での活用
【Ｈ２８策定予定】
② 小学校教科指導専門員による授業改善と小学校における言語活動の推進
③ 小学校教科指導重点校による活用力向上の取り組みの普及・拡充
④ 語彙力、読解力育成の取り組みと支援

（２）中学校

◎数学における課題
・通過率は向上傾向にあるが、56.5%台と低い。
・全国学力調査では、小６で平均正答率は全国平均並みであるが、中３では全国平均を大きく下回る。
・中１と中２で正答率分布が大きく変化する。これは、中学校に進学して数学の勉強を開始し、１年目から学習についていけない生徒が多数発生していると考えられる。
・低位層の学力の引き上げが必要

⇒　＜今後の方向性（案）＞

① 小中連携の充実による授業内容・指導方法の改善と充実
② 中１夏季勉強合宿の充実
③ 教科指導専門員による数学授業力向上の支援
④ 足立スタンダード（数学）の徹底
⑤ 中学生補習講座（中２対象）の充実と見直し

◎英語における課題
・通過率は 51.8%と低く、すべての観点でも全体参考値を大きく下回る。
・中２での正答率分布はほぼ平坦で、低位層が幅広く分布している。中学校に進学して英語の勉強を開始し、１年目で学習についていけない生徒が多数発生していると考えられる。低位層の学力の引き上げが急務である。
・中２から中３にかけて上位層が減少し中位層が増加することは、学習内容の深化に伴い、伸び悩みする生徒の存在を示唆している。
・学習指導要領の改訂や全国学力調査の実施(Ｈ３１)など、英語に必要とされる指導内容の変化が予想される。

⇒　＜今後の方向性（案）＞

① 外国語活動アドバイザーの活用による小学校英語活動の充実と中学校英語への連携強化
② 低位層の生徒の学力の引き上げのため、中１英語チャレンジ教室を実施【Ｈ２８新規事業】
③ 教科指導専門員による英語授業力の向上
④ 足立スタンダード（英語）の徹底
⑤ 中上位層の生徒を対象とした学力向上のための新規事業の検討を進める
⑥ 外国語教育を専門とする高等教育機関との連携により、児童・生徒、教員の英語力向上を図る
⑦ 新学習指導要領や全国学力調査等の実施を視野に、「読む・書く・話す・聞く」の学力状況を的確に把握し、個に応じた最適な指導や授業改善を進める

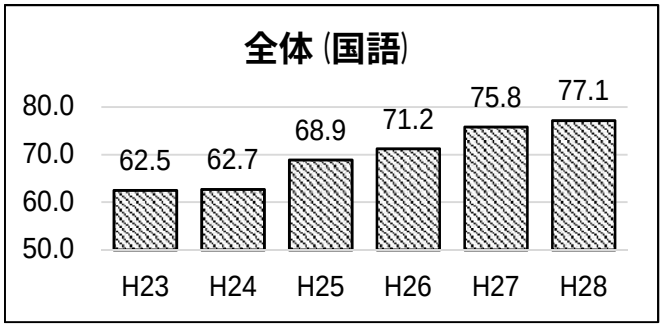
足立区学力調査　通過率の推移

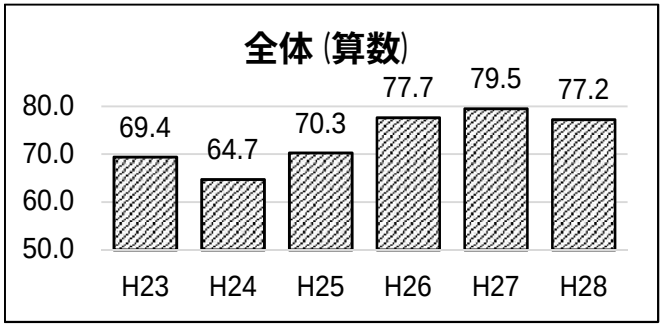
別紙１

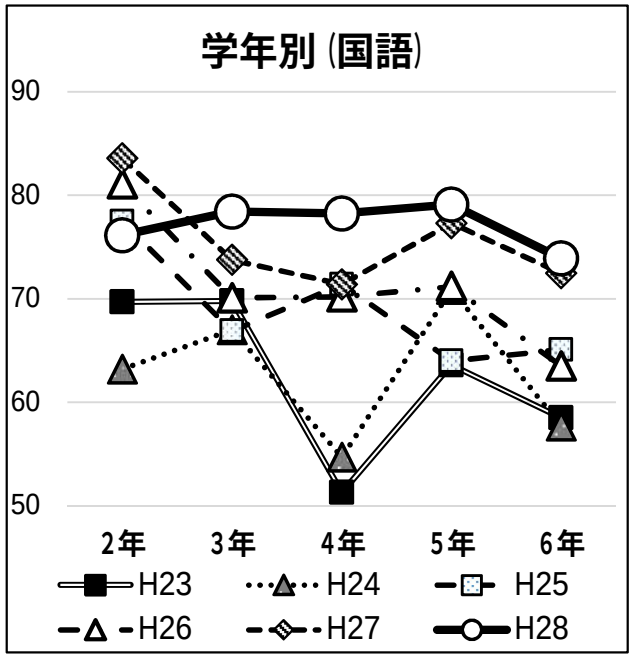
＜小学校＞

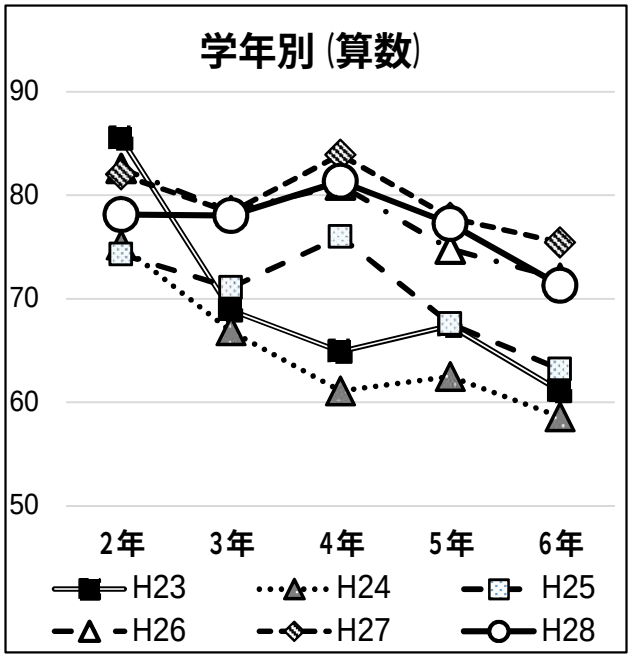
（通過率 単位：%）

年度		全体		2年		3年		4年		5年		6年	
		国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
H23		62.5	69.4	69.7	85.5	69.8	68.9	51.3	64.9	63.6	67.4	58.5	61.1
H24		62.7	64.7	63.2	75.2	67.0	66.9	54.7	61.1	70.9	62.5	57.7	58.6
H25		68.9	70.3	77.5	74.3	66.9	71.1	71.4	76.0	64.0	67.6	65.1	63.2
H26		71.2	77.7	81.1	82.6	70.1	78.5	70.2	81.0	71.2	74.8	63.5	72.0
H27		75.8	79.5	83.6	82.0	73.8	78.4	71.4	83.9	77.3	77.8	72.5	75.5
H28		77.1	77.2	76.1	78.2	78.4	78.1	78.2	81.4	79.1	77.3	73.9	71.3
H28 増減	対前年（H27）	+1.3	-2.3	-7.4	-3.9	+4.7	-0.3	+6.8	-2.6	+1.8	-0.6	+1.4	-4.2
	対H23	+14.6	+7.8	+6.4	-7.3	+8.6	+9.2	+26.9	+16.5	+15.5	+9.9	+15.4	+10.2





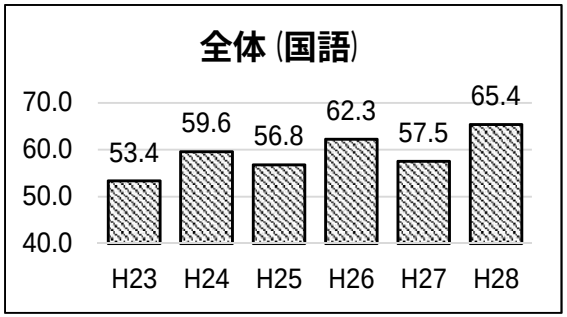


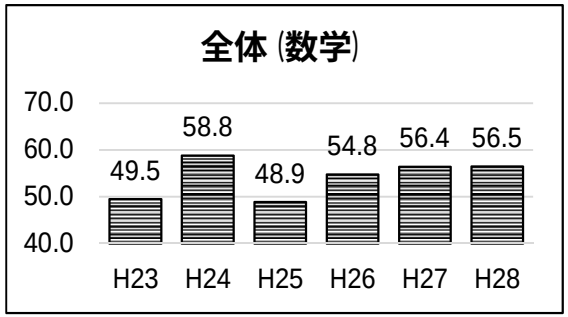


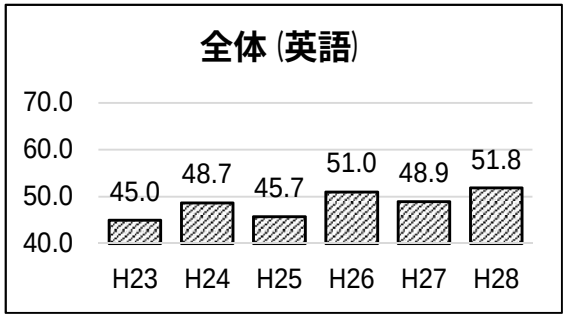
＜中学校＞

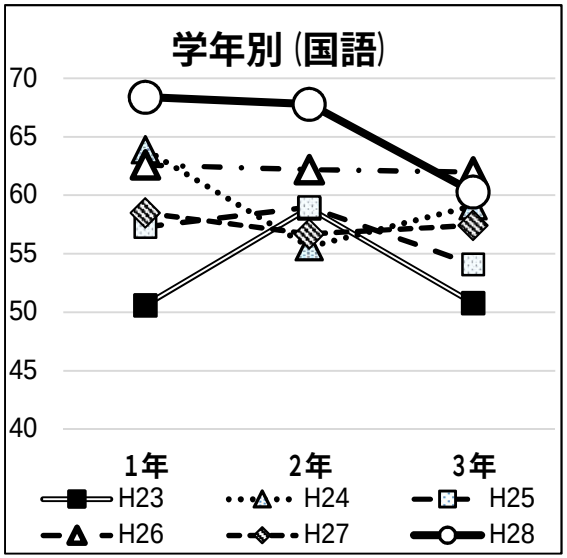
(通過率 単位：%)

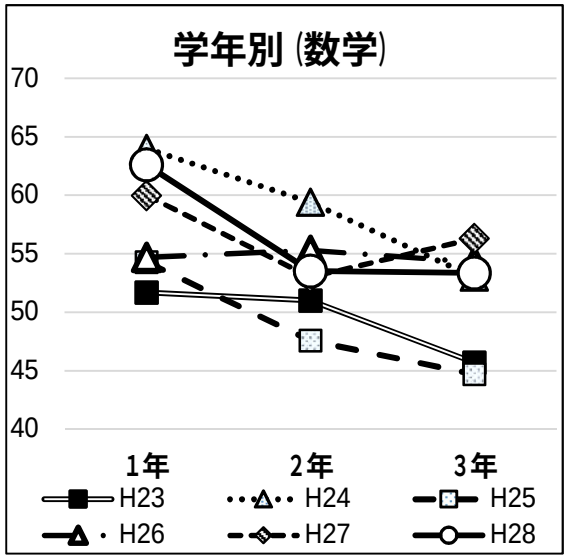
年度		全体			1年		2年			3年		
		国語	数学	英語	国語	数学	国語	数学	英語	国語	数学	英語
H23		53.4	49.5	45.0	50.6	51.7	58.9	51.0	43.9	50.8	45.7	46.3
H24		59.6	58.8	48.7	63.9	64.0	55.6	59.4	48.7	59.1	53.0	48.8
H25		56.8	48.9	45.7	57.3	54.3	59.0	47.6	44.8	54.1	44.7	46.6
H26		62.3	54.8	51.0	62.6	54.7	62.2	55.3	51.9	62.0	54.3	50.2
H27		57.5	56.4	48.9	58.5	60.0	56.7	53.0	46.7	57.4	56.3	51.2
H28		65.4	56.5	51.8	68.4	62.6	67.8	53.5	51.5	60.3	53.4	52.2
H28 増減	対前年(H27)	+7.9	+0.1	+2.9	+9.9	+2.6	+11.1	+0.5	+4.8	+2.8	-3.0	+1.0
	対H25	+8.6	+7.6	+6.1	+11.1	+8.3	+8.8	+5.9	+6.7	+6.2	+8.7	+5.6

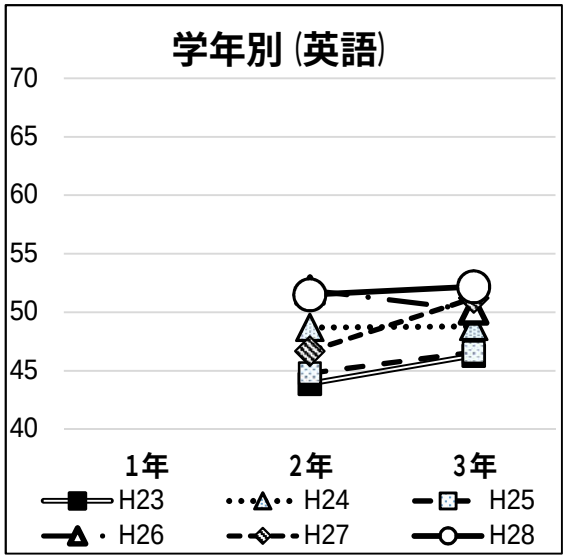








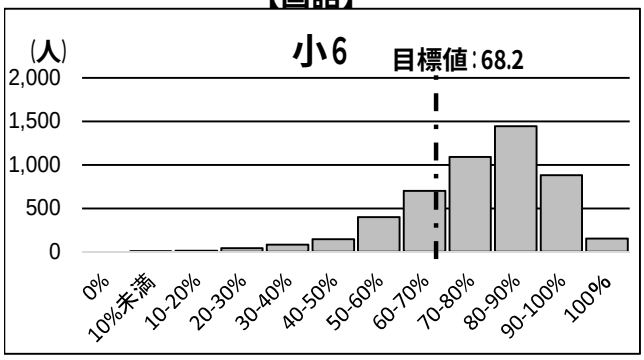


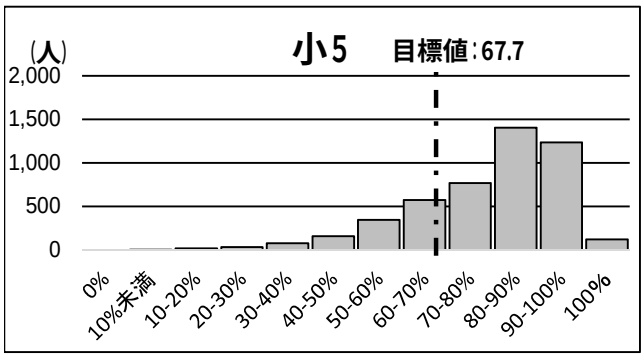


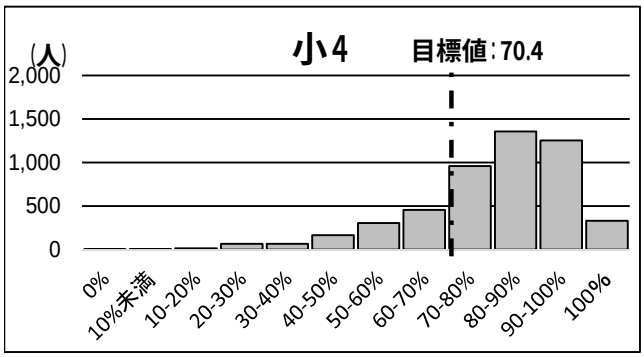
平成２８年度　足立区学力調査　正答率の分布
＜小学校＞

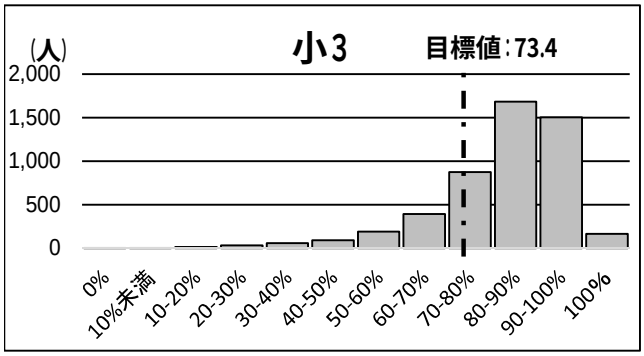
別紙２

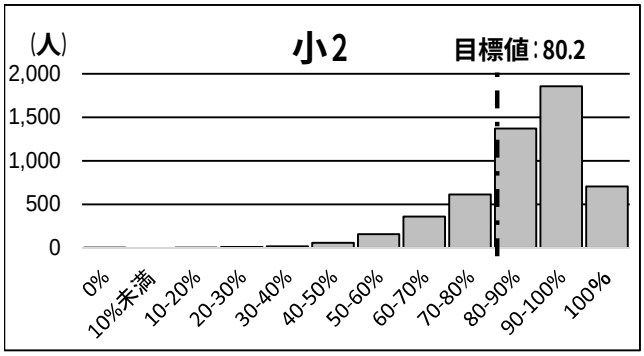
【国語】



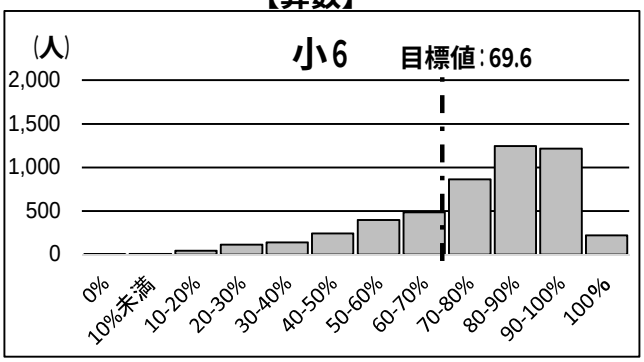


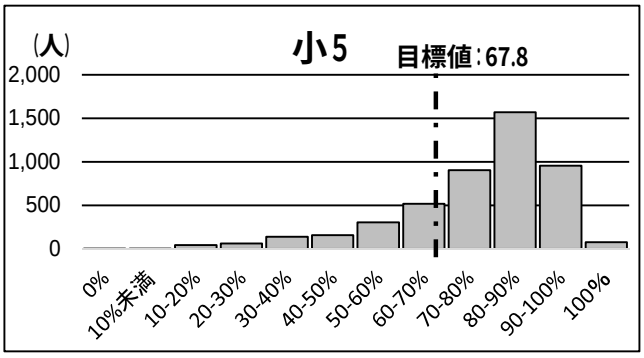


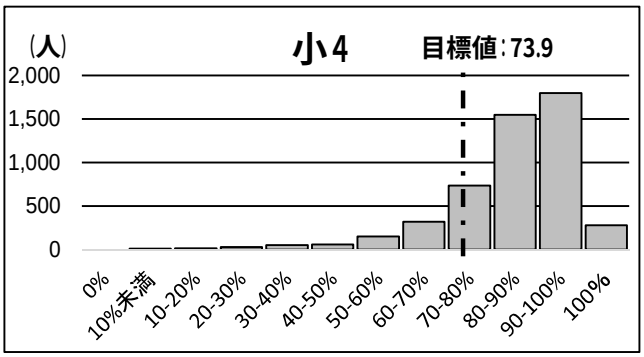


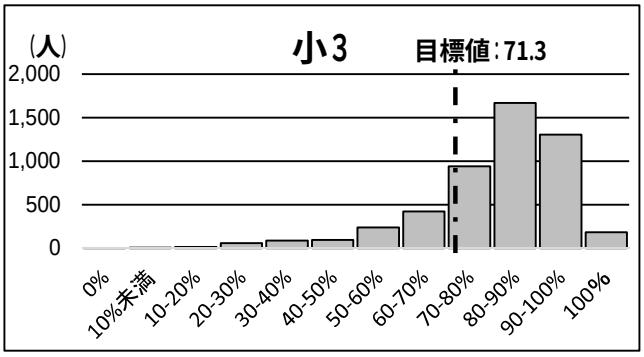


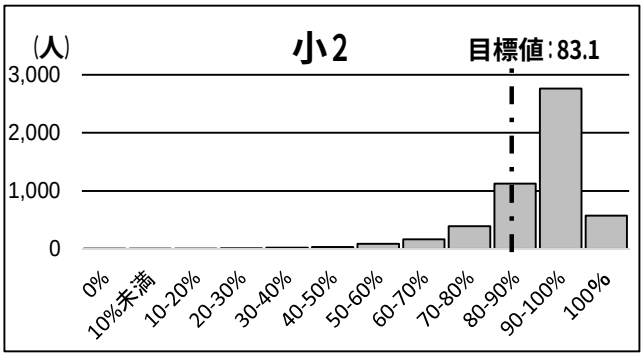
【算数】





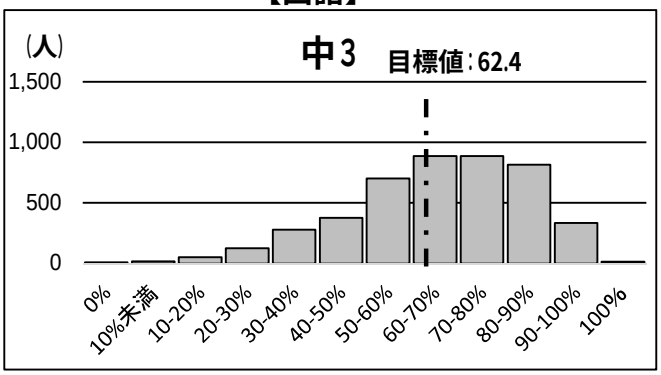


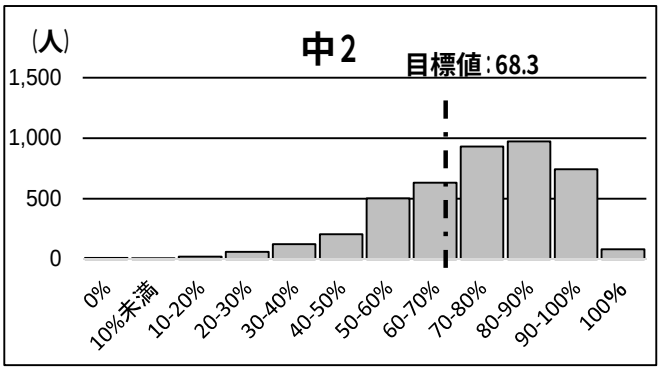


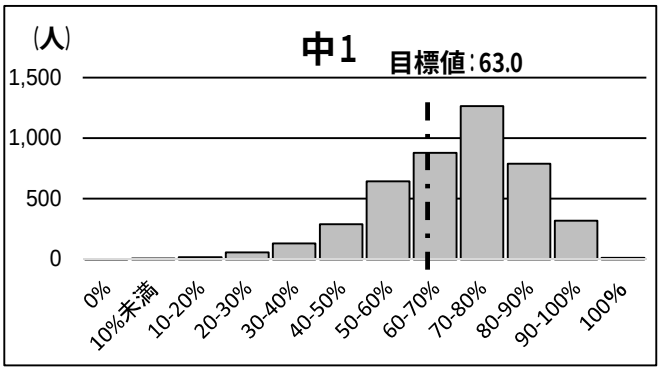


＜中学校＞

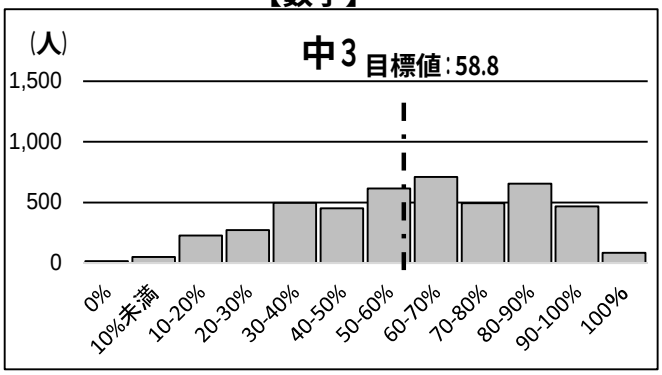
【国語】

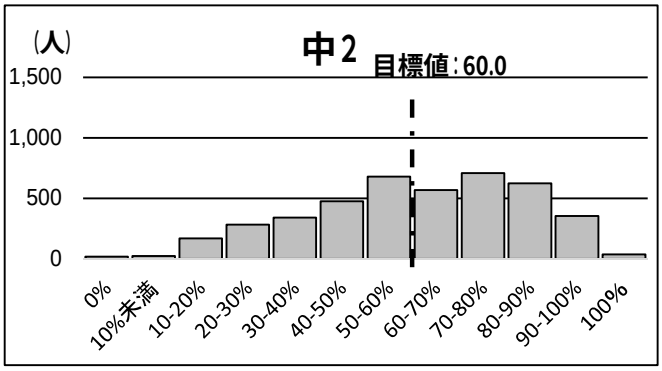

(人)
中3
目標値：62.4
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%

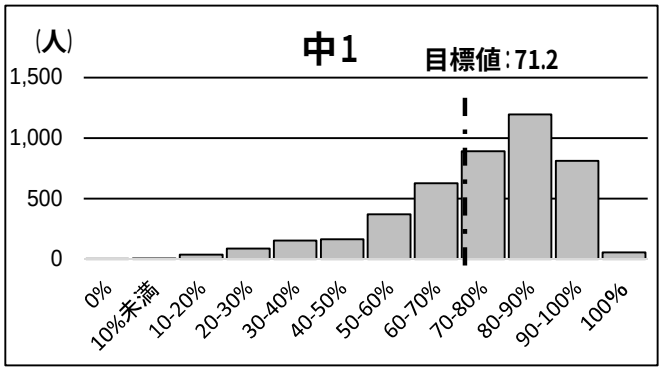

(人)
中2
目標値：68.3
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%


(人)
中1
目標値：63.0
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%

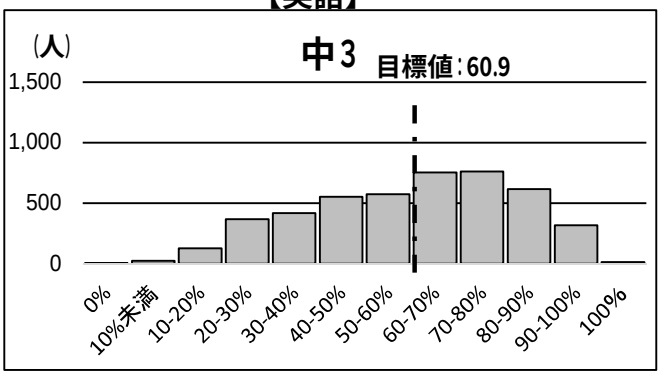
【数学】

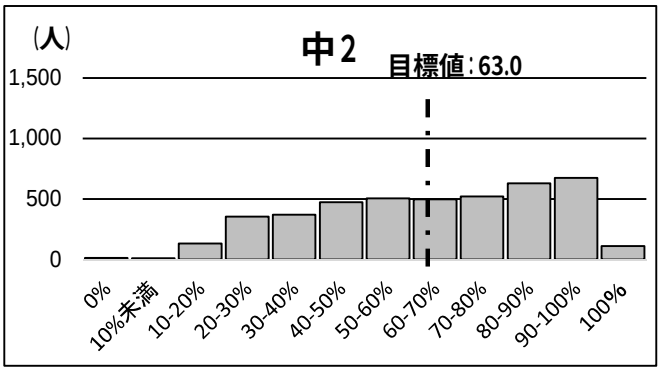

(人)
中3
目標値：58.8
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%


(人)
中2
目標値：60.0
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%


(人)
中1
目標値：71.2
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%

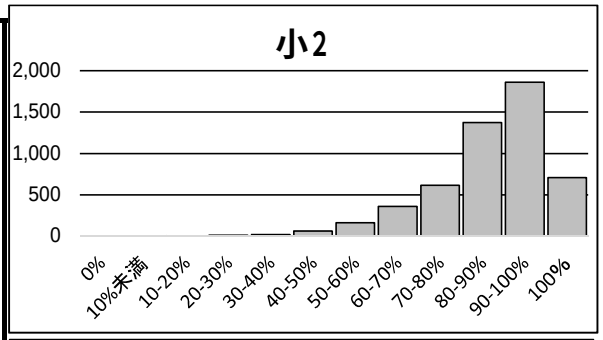
【英語】

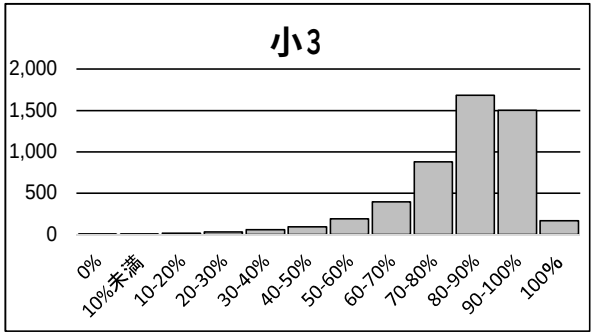

(人)
中3
目標値：60.9
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%

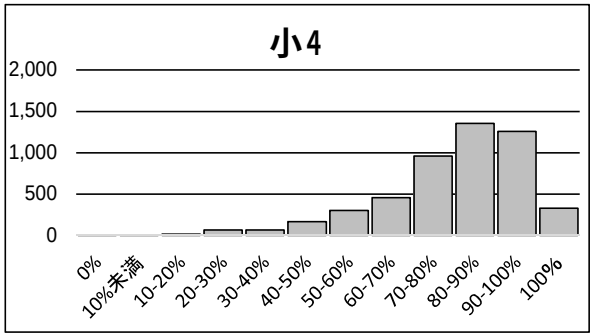

(人)
中2
目標値：63.0
1,500
1,000
500
0
0%
10%未満
10-20%
20-30%
30-40%
40-50%
50-60%
60-70%
70-80%
80-90%
90-100%
100%

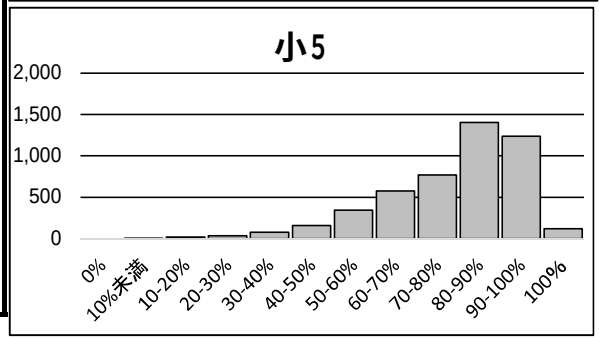
平成２８年度　足立区学力調査　正答率度数分布

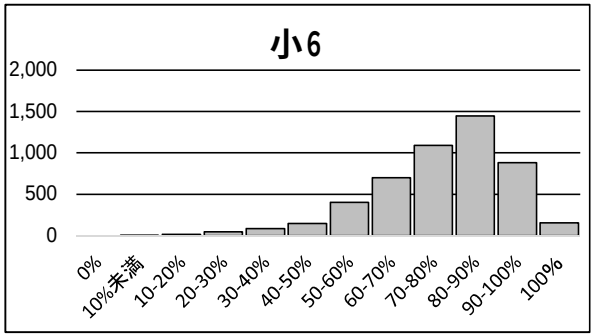
国語



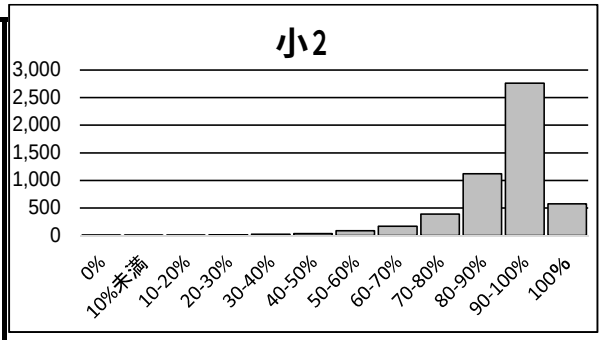


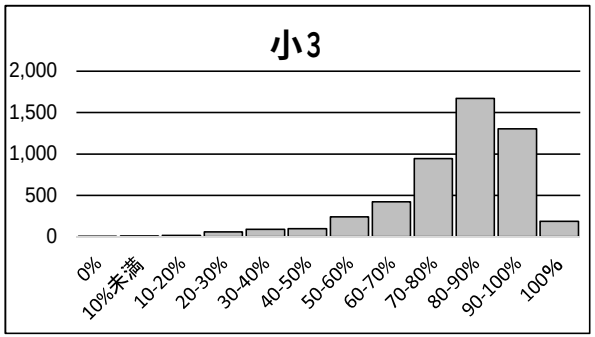


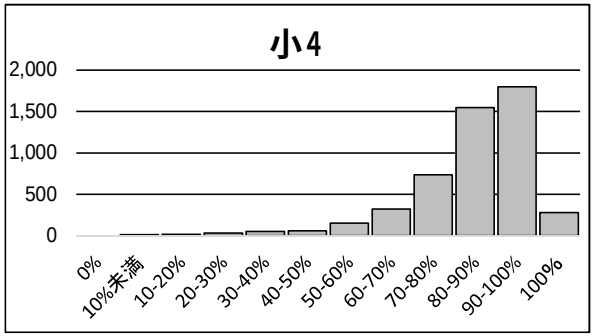


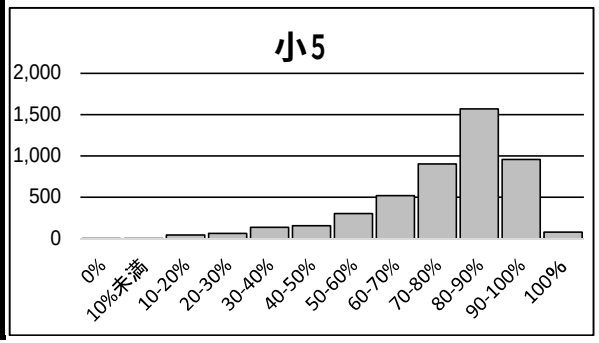


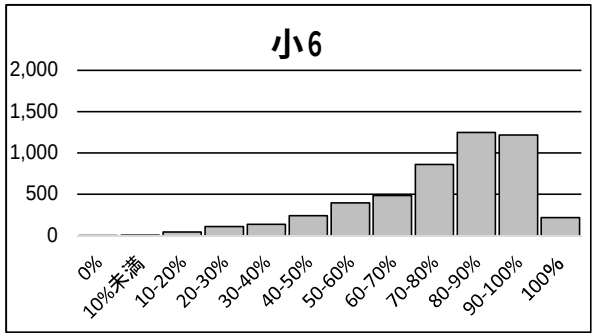
数学





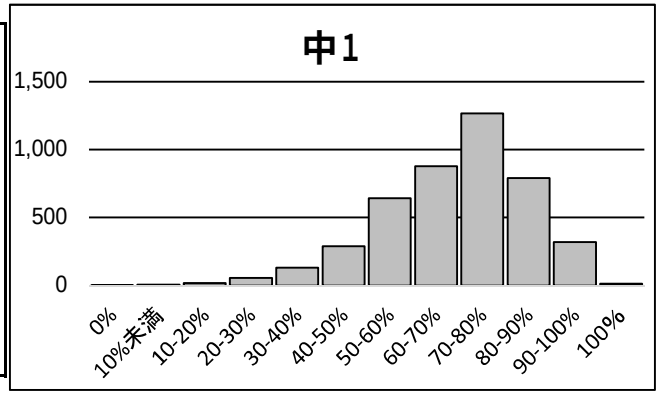


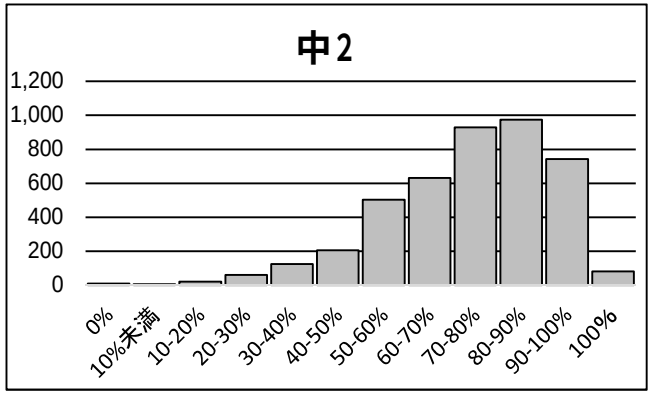


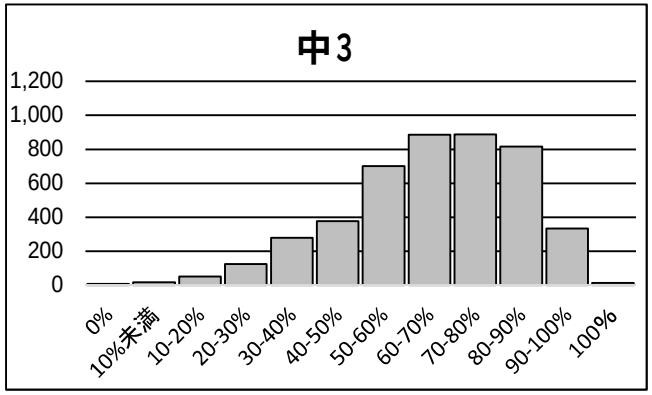


平成２８年度　足立区学力調査　正答率度数分布

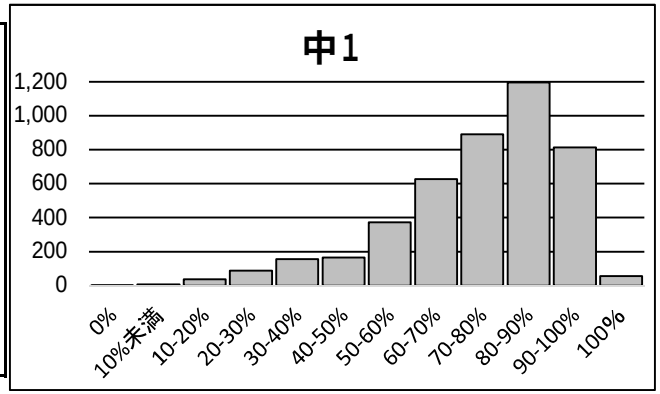
国語

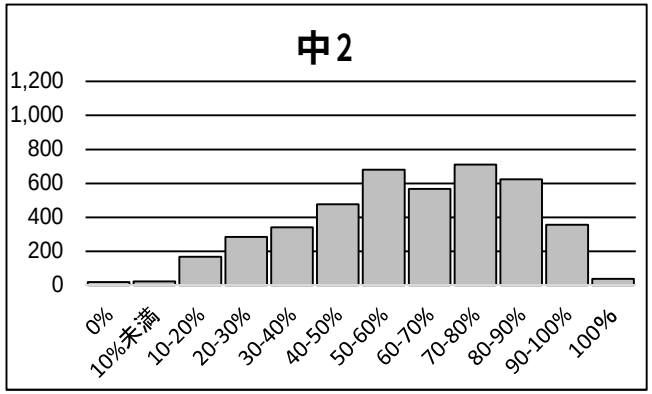


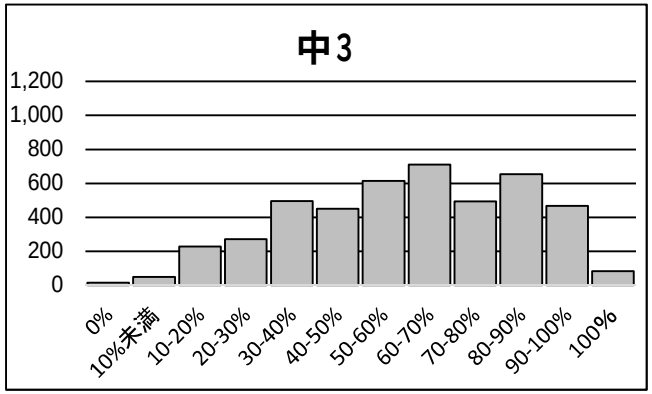




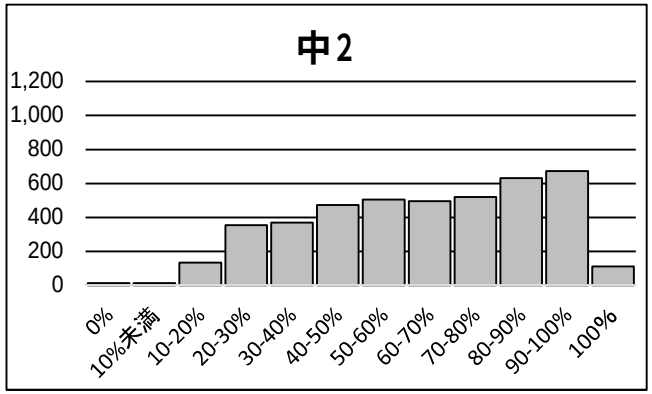
数学

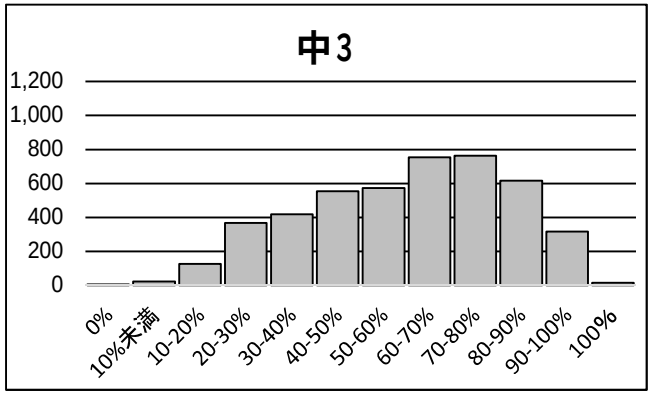






英語





別紙３

平成２８年度　足立区学力調査　全体参考値（※）との差

（※）足立区学力調査と同じ事業者の学力調査を実施している地方自治体の調査結果の全体平均を事業者が参考値として集計し、区が提供を受けたたもの。

＜小学校＞　（計算式：足立区の平均正答率－全体参考値における平均正答率）（単位：ポイント）

			2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全学年平均
国語	観点別	国語への関心・意欲・態度	＋1.2	＋12.2	＋9.2	＋10.3	＋3.5	＋7.3
		話す・聞く能力	＋2.5	＋7.2	＋5.0	＋3.4	＋7.9	＋5.2
		書く能力	＋0.8	＋17.2	＋15.0	＋17.7	＋4.1	＋11.0
		読む能力	＋1.9	＋6.6	＋4.7	＋5.9	＋2.0	＋4.2
		言語についての知識・理解・技能	＋0.3	＋2.6	＋5.8	＋5.8	＋2.6	＋3.4
	基礎・活用	基礎	＋0.4	＋5.8	＋6.5	＋7.5	＋2.4	＋4.5
		活用（思考・判断力、表現力）	＋4.3	＋9.4	＋7.6	＋7.4	＋5.4	＋6.8
算数	観点別	数学への関心・意欲・態度	＋2.1	＋11.7	＋9.2	＋13.4	＋6.3	＋8.5
		数学的な見方や考え方	＋3.8	＋11.4	＋12.2	＋9.8	＋7.0	＋8.9
		数学的な技能	＋1.7	＋5.5	＋7.3	＋9.0	＋6.2	＋6.0
		数量や図形などについての知識・理解	＋1.3	＋10.5	＋9.3	＋8.8	＋7.1	＋7.4
	基礎・活用	基礎	＋1.8	＋8.1	＋7.1	＋8.6	＋6.6	＋6.4
		活用（思考・判断力、表現力）	＋3.2	＋9.9	＋13.7	＋9.8	＋6.4	＋8.6

＜中学校＞

			1年生	2年生	3年生	全学年平均
国語	観点別	国語への関心・意欲・態度	＋8.2	＋4.2	＋2.5	＋5.0
		話す・聞く能力	＋2.1	＋1.4	-1.2	＋0.8
		書く能力	＋14.9	＋5.7	＋5.7	＋8.8
		読む能力	＋3.0	＋0.4	-1.6	＋0.6
		言語についての知識・理解・技能	＋2.1	-1.4	-2.1	-0.5
	基礎・活用	基礎	＋4.6	＋1.5	-0.1	＋2.0
		活用（思考・判断力、表現力）	＋3.4	-0.6	-2.5	＋0.1
数学	観点別	数学への関心・意欲・態度	＋4.5	＋0.1	-1.9	＋0.9
		数学的な見方や考え方	＋4.8	-0.2	-1.8	＋0.9
		数学的な技能	＋3.8	＋1.1	＋1.5	＋2.1
		数量や図形などについての知識・理解	＋0.4	-1.5	＋0.5	-0.2
	基礎・活用	基礎	＋1.8	＋0.5	＋1.4	＋1.2
		活用（思考・判断力、表現力）	＋5.9	-0.2	-2.1	＋1.2
英語	観点別	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝへの関心・意欲・態度		-0.5	-2.9	-1.7
		外国語表現の能力		-1.6	-3.9	-2.8
		外国語理解の能力		＋0.0	-2.0	-1.0
		言語や文化についての知識・理解		-3.2	-2.1	-2.7
	基礎・活用	基礎		-1.9	-2.1	-1.3
		活用（思考・判断力、表現力）		＋0.1	-3.3	-1.1

平成２８年度　全国学力調査結果　領域別･観点別等平均正答率

別紙４

(1) 小学校 6年生

(単位：%)

【国語】		国語A 足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減	国語B 足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減
平均正答率		73.2	73.8	72.9	▲0.6	0.3	1.1	▲0.8	57.0	59.8	57.8	▲2.8	▲0.8	▲0.2	▲0.6
平均正答率の学習指導要領の領域等別	話すこと･聞くこと	81.4	81.6	79.2	▲0.2	2.2	0.9	1.3	48.0	52.7	51.1	-	-	-	-
	書くこと	75.6	77.2	72.8	▲1.6	2.8	▲0.4	3.2	53.5	55.2	53.4	▲1.7	0.1	0.2	▲0.1
	読むこと	79.3	79.9	78.5	▲0.6	0.8	2.5	▲1.7	68.2	70.7	69.3	▲2.5	▲1.1	▲0.7	▲0.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.6	71.2	71.1	▲0.6	▲0.5	0.1	▲0.6	-	-	-	-	-	-	-
平均正答率の評価の観点別	国語への関心･意欲･態度	-	-	-	-	-	-	-	53.8	55.3	54.7	▲1.5	▲0.9	▲0.2	▲0.7
	話す･聞く能力	81.4	81.6	79.2	▲0.2	2.2	0.9	1.3	48.0	52.7	51.1	-	-	-	-
	書く能力	75.6	77.2	72.8	▲1.6	2.8	▲0.4	3.2	53.5	55.2	53.4	▲1.7	0.1	0.2	▲0.1
	読む能力	79.3	79.9	78.5	▲0.6	0.8	2.5	▲1.7	68.2	70.7	69.3	▲2.5	▲1.1	▲0.7	▲0.4
	言語についての知識･理解･技能	70.6	71.2	71.1	▲0.6	▲0.5	0.1	▲0.6	-	-	-	-	-	-	-
問題形式	選択式	78.7	79.7	77.2	▲1.0	1.5	0.1	1.4	59.1	62.8	59.9	▲3.7	▲0.8	0.7	▲1.5
	短答式	69.5	70.0	70.0	▲0.5	▲0.5	2.0	▲2.5	-	-	-	-	-	-	-
	記述式	-	-	-	-	-	-	-	53.8	55.3	54.7	▲1.5	▲0.9	▲0.2	▲0.7

(単位：%)

【算数】		算数A 足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減	算数B 足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減
平均正答率		77.9	79.4	77.6	▲1.5	0.3	1.7	▲1.4	47.9	49.8	47.2	▲1.9	0.7	0.1	0.6
平均正答率の学習指導要領の領域等別	数と計算	80.0	81.2	80.5	▲1.2	▲0.5	2.2	▲2.7	45.5	48.0	44.4	▲2.5	1.1	0.7	0.4
	量と測定	79.4	78.5	77.0	0.9	2.4	1.8	0.6	43.5	44.5	43.7	▲1.0	▲0.2	▲1.3	1.1
	図形	80.9	82.8	78.8	▲1.9	2.1	1.8	0.3	36.7	38.2	36.3	▲1.5	0.4	0.3	0.1
	数量関係	68.1	73.0	68.5	▲4.9	▲0.4	0.0	▲0.4	45.2	46.1	42.9	▲0.9	2.3	▲1.2	3.5
平均正答率の評価の観点別	算数への関心･意欲･態度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数学的な考え方	-	-	-	-	-	-	-	41.4	42.8	40.9	▲1.4	0.5	0.2	0.3
	数量や図形についての技能	82.2	83.5	82.5	▲1.3	▲0.3	1.3	▲1.6	55.7	58.8	53.3	▲3.1	2.4	▲1.2	3.6
	数量や図形についての知識･理解	75.9	77.6	75.4	▲1.7	0.5	2.1	▲1.6	69.7	72.6	69.5	▲2.9	0.2	1.2	▲1.0
問題形式	選択式	76.8	78.7	75.8	▲1.9	1.0	2.3	▲1.3	57.7	58.7	56.7	▲1.0	1.0	1.5	▲0.5
	短答式	78.4	79.8	78.5	▲1.4	▲0.1	1.5	▲1.6	67.8	70.3	66.4	▲2.5	1.4	▲0.4	1.8
	記述式	-	-	-	-	-	-	-	26.3	28.7	26.2	▲2.4	0.1	▲0.2	0.3

(2) 中学校 3年生

(単位：%)

【国語】		国語A							国語B						
		足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減	足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減
平均正答率		74.6	76.9	75.6	▲2.3	▲1.0	▲2.2	1.2	65.3	68.6	66.5	▲3.3	▲1.2	▲3.4	2.2
平均正答率の学習指導要領の領域等別	話すこと・聞くこと	79.2	81.0	78.9	▲1.8	0.3	▲2.5	2.8	-	-	-	-	-	▲4.6	-
	書くこと	72.8	75.4	73.7	▲2.6	▲0.9	▲2.3	1.4	56.2	60.0	58.3	▲3.8	▲2.1	▲4.4	2.3
	読むこと	78.0	80.8	78.6	▲2.8	▲0.6	▲1.5	0.9	65.3	68.6	66.5	▲3.3	▲1.2	▲2.8	1.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.3	74.5	73.9	▲2.2	▲1.6	▲2.3	0.7	-	-	-	-	-	-	-
平均正答率の評価の観点別	国語への関心・意欲・態度	-	-	-	-	-	-	-	56.2	60.0	58.3	▲3.8	▲2.1	▲4.4	2.3
	話す・聞く能力	79.2	81.0	78.9	▲1.8	0.3	▲2.5	2.8	-	-	-	-	-	-	-
	書く能力	72.8	75.4	73.7	▲2.6	▲0.9	▲2.3	1.4	56.2	60.0	58.3	▲3.8	▲2.1	▲4.4	2.3
	読む能力	78.0	80.8	78.6	▲2.8	▲0.6	▲1.5	0.9	65.3	68.6	66.5	▲3.3	▲1.2	▲2.8	1.6
	言語についての知識・理解・技能	72.3	74.5	73.9	▲2.2	▲1.6	▲2.3	0.7	-	-	-	-	-	-	-
問題形式	選択式	73.2	75.5	73.5	▲2.3	▲0.3	▲2.0	1.7	69.7	72.8	70.6	▲3.1	▲0.9	▲2.8	1.9
	短答式	77.9	80.1	80.5	▲2.2	▲2.6	▲2.9	0.3	70.3	73.5	71.1	▲3.2	▲0.8	-	-
	記述式	-	-	-	-	-	-	-	56.2	60	58.3	▲3.8	▲2.1	▲4.4	2.3

(単位：%)

【数学】		数学A							数学B						
		足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減	足立区	東京都	全国	都との差	国との差	前年(H27)	H27→H28増減
平均正答率		59.6	63.5	62.2	▲3.9	▲2.6	▲2.8	0.2	41.9	45.6	44.1	▲3.7	▲2.2	▲3.2	1.0
平均正答率の学習指導要領の領域等別	数と計算	63.8	67.3	65.9	▲3.5	▲2.1	▲3.0	0.9	49.3	53.2	51.5	▲3.9	▲2.2	▲4.7	2.5
	量と測定	65.2	68.5	67.1	▲3.3	▲1.9	▲2.4	0.5	31.9	37.2	33.3	▲5.3	▲1.4	▲3.0	1.6
	図形	47.8	53.1	52.0	▲5.3	▲4.2	▲2.9	▲1.3	39.5	42.4	41.4	▲2.9	▲1.9	▲2.3	0.4
	数量関係	53.7	57.6	56.5	▲3.9	▲2.8	▲2.9	0.1	35.5	39.4	39.3	▲3.9	▲3.8	▲3.2	▲0.6
平均正答率の評価の観点別	数学への関心・意欲・態度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数学的な考え方	-	-	-	-	-	-	-	36.7	40.9	38.9	▲4.2	▲2.2	▲3.0	0.8
	数量や図形についての技能	64.9	68.4	66.9	▲3.5	▲2.0	▲3.2	1.2	56.2	58.8	58.5	▲2.6	▲2.3	▲4.9	2.6
	数量や図形についての知識・理解	53.7	58.0	56.8	▲4.3	▲3.1	▲2.4	▲0.7	-	-	-	-	-	-	-
問題形式	選択式	55.8	59.2	57.8	▲3.4	▲2.0	▲2.3	0.3	40.5	42.8	41.3	▲2.3	▲0.8	▲0.5	▲0.3
	短答式	61.8	65.9	64.6	▲4.1	▲2.8	▲3.3	0.5	55.8	58.7	57.8	▲2.9	▲2.0	▲3.8	1.8
	記述式				-	-	-	-	30.3	35.3	33.1	▲5.0	▲2.8	▲4.5	1.7

平成２８年度 学力向上に関わる主要教育施策

別紙５

１．学力状況の把握と学習環境の整備

区分	事業名	実施年度	内容
小中	足立区基礎学力定着に関する総合調査	H16～	毎年度４月中旬に実施している区独自の学力調査。小２～６年、中１～３年を対象。前年度の学習内容から出題。（中１は英語なし）
幼保小	幼保小連携 ・幼保小連携ブロック会議 ・公開保育・公開授業 ・教員交流研修　等	H18～	幼稚園・保育園と小学校が教員や児童・園児の相互交流等を通して互いの教育内容・方法等への理解を深め、幼稚園・保育園では５歳児プログラムを、小学校では１年生に対してスタートカリキュラムを実施して学習への意欲や構えを育てることを通して、円滑な接続と小学校での基礎学力の定着を図る。
小中	小中連携	H23～	中学校学区域内の小学校１校（２校の場合もあり）との連携（原則として年８回以上）における授業研究や合同授業等を通して指導の連続性や足立スタンダードに基づく授業の徹底を図り、児童・生徒の学力定着と教員の授業力向上を目指す。今後、全ての小学校が中学校と連携を図れるように調整していく。
中	学校図書館支援員	H20～	中学校の学校図書館を整備するため、全中学校の学校図書館に学校図書館支援員を配置。放課後の学習場所としての図書館の解放と、適切な選書といった役割を果たす。
中	生活指導員	H27～	学校の適切な学習環境の維持と向上を図るため生活指導員（申請のあった学校に原則１名）を配置し、生徒の生活面の支援を行う。
小中	ＱＵ	H27～	親和的な学級集団では、学力の向上や不登校の減少に対して良い影響を与える。この知見を活かし、hyper-QU 調査を６７校の希望校で実施し、分析・対応することで親和的な学級集団の育成に学校体制で取り組み、児童・生徒の学力と社会性の向上を目指すとともに学校組織として自主性・協働性の高い組織の構築を目指す。 また、６７校中６校を研究校に位置づけ、学力調査とのクロス集計を行い、分析対応することで、学力の向上を目指す。

２．教員の授業力向上と授業の充実

区分	事業名	実施年度	内容
小中	足立スタンダード	H25～	区内の教師が児童・生徒に一定の学力定着を保障できるようにするために示した「授業の基本（授業の型）」。主要教科（国語、算数・数学、理科、社会、外国語）について作成。「めあて」「まとめ」の明示など、各教科共通の型がある。足立スタンダードに基づく「課題をもち、考え、伝え合い、まとめて、書く授業」や「ノートづくりの基本パターンに沿ったノート指導と板書計画を重視した授業」を通して学力定着を図る。
小中	基礎学力定着重点校	H23～ H27	基礎学力の定着状況と取り組みに課題の見られる学校を教育委員会が指定し、学力定着指導員を派遣。学力定着・向上策の充実を図る。平成２７年度の７校の指定をもって終了した。

区分	事業名	実施年度	内容
小	授業力向上指定校	H25～	若手教員が多い等の組織の実態により学力定着への継続支援が必要な学校として教育委員会が指定。学力定着指導員を派遣し、授業力の向上を図る。 平成２８年度は、特に学級担任・少人数担当数のうち産休等の代替教諭の割合の大きい学校を対象に、１０校を指定。
小中	教科指導専門員	H26～	教科指導の専門員が各学校を巡回し、教員の授業内容の改善・充実への指導・助言を行う。小学校は学力定着推進員と協力し、若手教員の育成指導を中心に行う。（中：国語・数学・英語　小：国語・算数）
小中	教員養成講座 (e-講座)	H26～	初任者研修の一つ。民間事業者によるインターネットを活用した教員養成講座（動画）等によって、初任者等の授業力向上を図る。
小中	大仙市教育視察	H26～	秋田県大仙市立小中学校に１週間教員を派遣。派遣教員は大仙市の学力を支える学校体制を学び、足立区立学校の学校経営改善に生かす。
小	小学校外国語活動アドバイザー、同スーパーバイザー	H20～	学級担任の外国語活動の目標の理解深化と実践力の向上を図るために平成２０年度から全校配置。 小学校英語必修化・教科化に備え、今後は、学級担任の英語指導力・英語力を向上させることを重点的に指導する。
中	ＡＬＴ	H16～	民間業者との派遣契約によりＡＬＴを全中学校に派遣。派遣期間は、５月から１０月。
中	ＬＥＡＤ（英語教材作成支援システム）の導入	H27～	ＮＨＫ「基礎英語」のデータベースを活用して生徒の英語力向上を図る。平成２７年度９校導入。平成２８年度は導入校をさらに追加。

３．個のつまずきの把握と適切な指導

区分	事業名	実施年度	内容
小中	ＳＰ表分析		学力調査結果を分析する手段の一つ。学力調査の問題ごとに、受検した児童・生徒一人一人の正答・誤答の状況を一覧表にしたもの。児童・生徒一人一人の理解度や誤答内容を把握することを通して、授業改善や学力定着の取組の推進を図る。
小中	学力ポートフォリオ		学力調査結果のほか、日常的な学習状況から見える児童・生徒一人一人の基礎学力定着上の課題を個人カルテとして蓄積したもの。これにより、一人一人の苦手な「観点」や「領域」、誤答傾向等が明らかとなり、指導の手立てが明確になる。また、次の担任等への引継も確実となる。
小	ＭＩＭ （多層指導モデル）	H24～	小学校低学年の児童がつまずきやすい「特殊音節（促音、拗音、長音など）」に焦点をあて、小テスト(アセスメント)により苦手な箇所を把握しながら、理解状況ごとの層に応じた指導を充実する。文字や語句をすばやく確実に読める力を身につけることで、読解力の向上につなげる。対象は小学１年生。

区分	事業名	実施年度	内容
小	そだち指導員	H26～	国語・算数においてつまずきが見られたり、基礎学力の定着が不十分な状況が見られたりする児童に対し、別教室において個別指導を行うことで、つまずきの早期解消を図る。対象は小学３・４年生。
中	中１英語基礎確認問題	H28～	中１の学習内容のつまずきを早期に発見し、対応するために行う。 第１回１２月～１月、第２回３月実施。

４．放課後や長期休業期間等の補充学習

区分	事業名	実施年度	内容
小	パワーアップタイム		原則として朝の時間（１校時前の１５分間。昼間等の場合もあり）を活用して、音読、計算を中心とした基礎的・基本的な内容の反復学習の機会を設ける。
小	あだち小学生基礎学習教室	H21～	３年生までに習得する四則計算・漢字の定着が不十分な３・４年生を対象に年３０回（水曜日放課後・土曜日）少人数補習を実施。民間事業者に委託。平成２８年度末をもって廃止予定。
小	サマースクール	H21～	夏季休業中の１０日間以上に渡り、基礎学力定着に課題の見られる３・４年生の児童を中心に、個別指導を中心とした学習教室を実施。（宿題の質問受付や自由学習の場ではない）
中	中１夏季勉強合宿	H25～	数学につまずきの見られる中１の生徒を対象に宿泊勉強会を実施。つまずきの解消と学習意欲の向上を目指す。
中	放課後補充学習	H26～	放課後の３０分間を活用し、基礎学力の定着に課題の見られる生徒を対象に個別指導を実施。
中	英語チャレンジ講座	H27～	中１で英語を苦手としている生徒を対象にした民間事業者による補習。１０月以降全中学校実施予定。１回５０分×２コマ全８回（６回日本人講師による授業・２回英語母語話者による授業）。
中	中学生補習講座	H18～	中２の生徒を対象。夏季休業中の７日間、数・英の基礎的・基本的な学力の定着を目指して実施。民間事業者が対応。
中	夏季学習教室		上記の中学生補習講座とは別に、学校が夏季休業中に設ける補習の機会。上記の講座の対象ではない生徒に対して個別指導を実施。
小中	学習支援ボランティア		児童・生徒と年代の近い大学生や、地域の方が学習支援ボランティアとして関わることで、授業や補習教室、放課後学習などで、よりきめこまやかな対応が可能となり、児童・生徒のやる気を引き出し、積極的に学ぶ姿勢につなげる。

５．そのほかの学力向上の取り組み

区分	事業名	実施年度	内容
小中	○活用力向上モデル校	H26～	基礎学力の定着に向けた取組に加え、活用型の授業を効果的に行うことで児童の活用力を向上させるとともに、その取組を「活用力向上ガイドライン」にまとめ、区内小・中学校に活用力向上研修会においてモデル校の実践発表を通じて発信、普及させる。 平成２８年度は６校（千寿小、千寿本町小、弘道第一小、東綾瀬小、長門小、花畑北中）において実施。
小中	○読解力強化対策（新聞の活用）	H27～	全国紙（主要５紙）を小中学校全校が購読。各学校で新聞を活用した取り組みを通して児童・生徒の読解力向上を図る。
中	○足立はばたき塾	H24～	成績上位で学習意欲も高いが、経済的理由等により、塾などでの学習機会の少ない生徒に民間事業者を活用したハイレベルな授業を毎週土曜日に行う。（夏冬の休業期間中の集中講座もあり）
中	○足立土曜塾	H24～	上記のはばたき塾に学力面で合格基準に達しなかった生徒を対象に学習の機会を保障。毎週土曜日に民間事業者による授業を実施。